



これからも、選ばれる先進のまちを目指します
 ～コロナ後の社会を見据えた飛躍の年に～

大河原町長 齋 清志

明けましておめでとうございます。皆様には、コロナ禍にあってもこれまでの経験と知恵を活かし、穏やかな初春をお迎えのこととお喜び申し上げます。また、日頃の町政への温かいご理解とご協力に対し、心より感謝申し上げます。

さて、昨年は長引くコロナ禍への対応に明け暮れる一年でありました。そして、この国難を克服するために政府・自治体・医療機関・国民が一丸となって取り組み、大きく落ち込んだ社会経済のマイナスを一日も早く回復させるために懸命の努力が続きました。また、新たな感染の波に備えて最悪の事態を想定した医療提供体制の拡充をはじめ、ワクチンの追加接種や新しい経口治療薬の承認等に大きな期待が寄せられてきたところです。

一方、明るい話題もありました。賛否両論のあった『東京オリ・パラ』は、ほぼ無観客での開催にも関わらず選手たちの活躍により強い絆と数々の感動を呼びました。また、MLBロサンゼルス・エンゼルスの大谷翔平選手の二刀流での大活躍が、日本中に勇気と元気を与えてくれるピッ

グニュースとなりました。

そして、本町においては飲食業を中心に多くの業種で深刻な経営状況が続き、国・県の支援はもとより町独自の対応にもスピード感のあるきめ細やかな支援が求められました。現在も一部に厳しさは残るものの、事業が継続されていることに少し安堵感も生まれています。また、人口は僅かながら増加し、若い世帯の転入により働き手の推移も堅調で税の総額も確保されている状況です。

しかし、長引くコロナ禍で、本町でも経済・雇用・情報・教育等の分野で格差の広がる懸念が生じています。特に女性や子ども、貧困の顕在化や孤立化が一層深刻さを増しています。社会的包摂の推進や誰一人取り残さない社会の実現が大切な視点となっているものと認識するところです。

このような現状を踏まえ、今後の本町の取り組みとして、引き続き『ひと・まち・桜が咲きほこる先進のまち』を目指してまいります。特徴を存分に活かした町のブランド化に拍車をかけ、地域力の向上と選ばれる町づくりの推進によって、人口減少の抑

制に挑戦します。近年は、高齢化率や介護認定対象者に大きな変化はなく、高齢者の健康意識の高さを活かして『元気で長生きのまち』の定着を図ります。

また、防災・減災をはじめ災害対応の施策を拡充強化し、安全・安心が実感できるまちづくりに努めます。さらに、町の象徴である『一目千本桜』の保護と活用を注ぎ、新たな桜の名所づくりに取り組みます。現在進行中の『白石川右岸河川敷等整備事業』は、桜とともに新しい賑わいの創出による広域連携と官民連携の成果が大いに期待できる一大プロジェクトとなりました。そして、教育と生涯学習の充実を図り、デジタル社会推進の加速化や環境対策の実践と、地方創生の指針に基づく持続可能な地域づくりの実現に留意したいと考えているところです。

結びに、本町のまちづくりの理念である『認めあい・支えあい・活かしあう』を再確認し、コロナ後の社会を見据えた飛躍の年に向かって全力投球してまいります。

本町の限りない発展と皆様のご多幸を祈願し、新年のご挨拶といたします。本年も宜しくお願い申し上げます。

町長・町議会議員



町民のために働く！
 必ず結果を出す議会を目指して

大河原町議会議長 岡崎 隆

あけましておめでとうございます。皆様とともに新春を迎えるにあたり、2年にわたるコロナ禍の中で窮屈な生活が当たり前となった昨年までとは異なりコロナ感染が沈静化に向かい、徐々にではありますが、コロナ禍以前の日常に戻れるような年になりますことを干支である寅年『壬寅(みずのえとら)』にあたり心から願うばかりです。今年の干支の理は『陽気をはらみ、春の胎動を助く』『冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく生まれる年を意味する』とのことで、尚更期待が膨らみます。

数発生いたしました。全国的には7月に熱海で大規模な土石流が発生し26名の死者が確認され、未だに1名が行方不明となっております。振り返れば、平成から令和にかけて、私たちの暮らしそのものが災害の歴史であったと言えるのではないのでしょうか。

議会でも防災意識の向上に町民の皆様とともに取り組む中で、去る12月4日に中央公民館で行われた『明日青のつどい2021』に参加する機会がありました。防災研修と題して大河原中学校生徒による『プロジェクトMASの取り組み』について、継続的に防災知識の習得に取り組み、災害時に学校教室を避難所として活用した模擬訓練を多くの地域住民とともに実践されていることが紹介されました。また、今後は様々な防災・減災の資格取得にもチャレンジしたいとの決意発表もあつたことから、子どもたちの防災力の向上こそ、地域の逞しさ・やさしさ・賢さにつながる一丁目一番地の取り組みであると心新たに全機会にもなりました。今年こそ町が独自に全額費用助成する制度を活用した中学生防災士を誕生させることに議会が一丸となって取り組み、地域防災力のさらなる向上を図ることで結果を出すことをお約束いたします。

また、年末には大河原史上に残る事態が発生いたしました。12月12日、町内の養豚場で豚熱感染が確認され、系列農場と併せて豚約11900頭が殺処分されました。昨年一番の残念でならない出来事が年末に起きたことは、数か月前から県の調査により感染拡大が危惧されていただけに、議会としても力不足を実感させられました。この養豚場は日本有数の防疫対策を誇っており、長年社会貢献にも注力してきた企業であります。今後は公的な救済策を国・県とともに町としても最大限の施策を尽くすと同時に、『大河原が誇るブランド豚肉を風評被害から守り抜く施策』を議会も町とともに図ることが急務です。正常な業務に一日も早く戻れますよう寄り添うことをお誓いいたします。

結びに、昨年スポーツ界ではオリンピック・パラリンピックで多くのメダリストが誕生し、さらには、大谷選手がメジャーでMVPに輝き、将棋界では藤井聡太四冠誕生など明るい話題もありました。今後とも防災・減災の取り組みをさらに強化し、コロナで疲弊した中小零細企業や困窮するご家庭の皆様も安心して暮らせることにつながる政策提言に励み、大河原町議会として結果を出せるよう努力いたします。

町民の皆様のご健勝をお祈りいたしまして新年の挨拶とさせていただきます。